



1月15日の「市駅伝競走大会」、気迫のタスキリレー<市民スポーツセンターにて>

綾瀬市民の歌を効果的に活用しふるさと意識の醸成を



あやせ未来会議 安藤多恵子

問 綾瀬市民の歌は、有名な作曲家が作曲し、市民公募により作詞された感動的な歌だと思ふ。この歌が作られた経緯や、どのようなときに歌われてきたのか。この歌は、大変良いと思うが、あることを知らない市民も多いと思ふ。ふるさと意識を醸成するためにも、行進曲バージョンもあることから、学校や自治会などにお知らせし、運動会

などで、効率的な活用ができないか。さらに、市の40周年記念事業の際にアピールしてはどうか。また、市役所職員は新人研修などで、この歌を覚える機会はあるのか。

答 綾瀬市民の歌は、昭和54年11月に市制施行1周年を記念し、市民の交流と郷土愛を育む市の象徴として作成し、これまで、市の表彰式典などで使用してきた。学校や自治会などに対し、市民の歌の素材を提供し、活用の促進を行うとともに、40周年記念事業では、式典での斉唱や記念誌での周知などを検討していく。また、新採用研修の中で、市民の歌を覚えるような機会は設けていないが、職員がこの歌を覚えることは大切と考へており、新採用研修などでも取り組んでいきたい。(ほかに「厚木基地基地行政の今後を考える」「シティセールの新なるステージに向けて」を質問)



障がい者の雇用拡充ともみの木園運営改善の状況は

あやせ未来会議 佐竹 百重

問 県内の障がい者雇用率は、平成27年6月時点で1・82%と法定雇用率の2%に達しておらず、50人以上100人未満の企業では1・34%にとどまっております。県は企業訪問に力を入れて啓発に取り組むとの方針を出している。本市には、先進的に障がい者雇用に取り組んでいる企業があ

るため、この企業の事例を参考に雇用を拡充していくべきだと思ふが、本市の状況はどうか。27年に、市内唯一の児童発達支援センターであるもみの木園に対して、保護者から療育の質の向上や職員の専門性の担保など、改善すべきことが求められたが、一年を経過し、どう取り組んだのか。

答 市では、企業に報奨金を交付して障がい者の雇用促進、市政への市民参加を感じてもらえ、職員の受付事務の簡素化につながると思ふが、通報システムの導入を検討しないか。また、システムを導入するうえで、今後どのような効果が期待できるのか。

答 平成27年度は、1075件、28年度は11月末現在で725件依頼があり、舗装面の破損、側溝の詰まり、草刈りの対応や、カーブミラーの修繕など多く寄せられている。スマートフォンを活用したアプリケーショは、市政への市民参加をより高める有効な手段と考へており、現地写真、位置情報などを送信できる、通報システムの導入を検討している。また、このシステムの導入は、市民のみちづくりへの関心や、行政との連携が強化され、安全安心な道路維持や、行政事務の軽減、迅速な対応による市民サービスの向上につながると思ふ。(ほかに「発災時の初動体制について」を質問)

道路通報アプリケーショを活用したシステム導入を



志政あやせ 笠間 昇

問 道路の整備、補修は、市民生活の利便性だけでなく、企業の活動にも影響するため、破損箇所の速やかな補修対応は必要不可欠である。市に寄せられる、道路に関する年間通報件数と内容は、補修の通報手段の一つとして、スマートフォン用アプリケーショを活用した通報システムを導入する自治体が増えていく。市民が通報することによ

るため、この企業の事例を参考に雇用を拡充していくべきだと思ふが、本市の状況はどうか。27年に、市内唯一の児童発達支援センターであるもみの木園に対して、保護者から療育の質の向上や職員の専門性の担保など、改善すべきことが求められたが、一年を経過し、どう取り組んだのか。

答 市では、企業に報奨金を交付して障がい者の雇用促進、市政への市民参加を感じてもらえ、職員の受付事務の簡素化につながると思ふが、通報システムの導入を検討しないか。また、システムを導入するうえで、今後どのような効果が期待できるのか。



市公認キャラクター「ブタッコリン」

市独自の地域包括ケアシステムをどう構築するのか



あやせ未来会議 比留川政彦

問 国の平成28年版高齢社会白書によると、高齢者の人口が平成54年にピークを迎えると推計している。このような状況の中、厚生労働省は、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を實現していくとしており、自治体は、3年ごとの介護保険

事業計画の策定・実施を通じて、地域の自主性や主体性に基き、地域の特性に応じたシステムを構築するとしている。本市でも、約4人に1人が高齢者となり、今後高齢化が進んでいくと見込まれるが、市独自のシステム構築にどう取り組んでいくのか。

答 本市の取り組みは、高齢者が自らの経験と知識を生かして社会参加する元氣高齢者社会参加システム、要介護状態になることを防ぎ地域社会での活躍を目指すハイリスク高齢者介護予防システム、医療職と介護職による包括的な支援で在宅生活継続を目指す要介護者総合支援システムで、高齢者の状態に応じた3つのシステムの構築を目指していく。特に、元氣な高齢者への施策は、介護給付費の増加などを抑え、市民の負担軽減にもなるため、最優先で取り組み、重点的に施策展開する必要があると思ふ。(ほかに「地域の個性を生かした公園の特色づくりについて」を質問)

市負担による自転車保険導入と貸し出し自転車増台を



日本共産党 松本 春男

問 近年、自転車と歩行者の事故が増え、自転車に対する道路交通法も厳しくなり、自転車を加害者とした1億円を超える損害賠償判決も出ている。大和市では児童や生徒、その家族を対象に、自治体負担の自転車保険加入を行っているが、本市でも導入する考へはないか。また、幼児2人同乗用3人乗り自転車レンタル事業では、20台の貸し出しに

対し、毎年その3倍の申し込みがある状況と聞き、増台が必要だと思ふが、応募状況は、事業開始から6年が経過し、自転車の劣化も進んでいると思ふが、修理や事故の状況は、

答 自転車は、誰でも気軽に使える日常生活に欠かせない交通手段だが、近年、自転車加害者となる高額の賠償責任事件が全国的に発生している。自転車保険加入は自転車利用者の責務と考へており、今後も加入促進に向け、意識啓発を図っていききたい。また、応募件数は、平成28年度は65件あり、29年度予算で、台数拡充や購入助成への移行なども含め、検討を進めたい。修理はタイヤ7件、ブレーキワイヤー13件の交換、20台全てのバッテリーの交換を終了しており、事業開始後、自転車乗車中の事故報告は受けていない。(ほかに「爆音解消に向けて」「落合・吉岡地区区画整理について」「洪水対策の調整池について」を質問)